新玉地区タウンミーティング

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成２４年２月２８日（火曜）

【市長】　皆さんこんばんは。今日、平日の夜間、お仕事の方ももちろんいらっしゃったと思います。お疲れのところ、また雨の中、こんなにたくさんお集まりいただきまして本当にありがとうございます。また、このタウンミーティングの受け入れにあたりましては、地区の広報委員会の川﨑会長はじめ、役員の皆様にご協力いただきました、本当にありがとうございます。さて、このタウンミーティングですけれども、私が就任させていただいてから始めることにいたしました。松山市は４１地区に分かれます、今日が１９回目、１９地区目ということになりますけども、このタウンミーティングといいますのは、私考えましたのは、市役所で皆さんが来るのを待ってるほうが、楽と言えば楽ですよね。それでいいのだろうかと思いました。我々がこちらから出て行って、各地区で魅力についてお伺いする、そして課題や問題点についてお伺いしようと思ったのがはじまりです。各地区で魅力について最初お話していただきます。これはなぜかというと、行政が主体になって４１地区のまちづくりをしたら、それは面白くない、どこを切っても同じ顔という金太郎あめのような地区がそれぞれにできてしまう、それが４１集まった松山市なんて全然面白くないですよね。各地区の魅力、それぞれに歴史があり特徴があると思いますので、各地区の魅力を１番よくわかっていらっしゃるのは、そこに住む皆さん方です。魅力について認識していただいて、その魅力を活かしたまちづくりをしていくとその地区は輝く、そしてその４１の集合体である松山市はさらに輝くということが言えると思います。ですので、まずは皆さんに魅力について語っていただくというのを、各地区でやっております。そして、問題点、課題点も当然あろうかと思いますので、それについても皆さんのご意見を伺おうというふうに毎回やっております。我々から出ていくという、しんどいことをしましょうというのが一つ。もう一つ、このタウンミーティングは「やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしない」というのが、松山版のタウンミーティングの特徴です。ここで聞いてるふりをすると楽なんです。でもそれじゃいけない、必ずここでお答えできることはお答えをいたします。また、ここでお答えできないこと、それは国と絡むもの、県と絡むもの、財政的な問題があるものというのは、いったん持ち帰らせていただいて、１カ月をめどに、必ず各地区にお返事を返させていただきます。なぜ１カ月かというと、例えばこういうご意見をいただいた、国に問い合わせる、県に問い合わせる、国や県から回答が返ってくる、それを松山市で受け止めて、どうしようかということを決めますので、1カ月くらい期間としてかかるんですけど、１カ月をめどに必ず回答をお返しすることにしております。「やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしない」というのが、松山版のタウンミーティングの特徴です。松山市の仕事というのは、本当に幅広いものでございます。松山市立の小学校、中学校とかもあれば、図書館もある、上水道、下水道もある、コミュニティセンターもある、競輪場もある、坊っちゃんスタジアムもある、マドンナスタジアムもあるというのが松山市の仕事でございます。それぞれに専門がありますので、今日は部長課長たちが来ておりますので、自己紹介をさせます。

【市民部長】　皆さんこんばんは、市民部長の三好と申します。このタウンミーティングを統括しております。普段の業務といたしましては、窓口サービスの充実という形で、市民課でありますとか、２２支所７出張所、市民サービスセンター、パスポートセンター、消費生活センター、こういった業務をしております。一方、住民主体のまちづくりといった形でＮＰＯとか住民の活力を活かしてのまちづくりを担当しております。よろしくお願いいたします。

【都市政策課長】　皆さんこんばんは、都市政策課の白石でございます。都市整備部では道路、公園等の整備及び維持管理等を行っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【松山駅周辺整備課長】　皆さんこんばんは、松山駅周辺整備課長の松本と申します。松山駅周辺整備課という課は平成１４年度に設置をされました。特に市が施行しております土地区画整理事業あるいは関連事業を進めております。よろしくお願いします。

【下水道政策課長】　皆さんこんばんは、下水道政策課長の青木と申します。下水道部では公共下水道の整備とか水路の整備、がけ崩れ防災対策事業を所管しております。今日は皆様の話を聞いてできる限り施策に反映させていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【保健福祉政策課長】　皆さんこんばんは、保健福祉政策課長の大濱でございます。保健福祉全般を担当しております。今日はよろしくお願いいたします。

【消防総務課長】　皆さんこんばんは、消防局総務課の岡本でございます。消防、救急、地域防災と消防防災全般を担当しております。よろしくお願いいたします。

【市長】　という６人でございます、よろしくお願いいたします。今日は９０分という時間でございますけれど、結構これは短いようで長い、長いようで短いんでありますけれど、あまり肩ひじ張ってると疲れてしまいますので、ざっくばらんな気持ちでやっていただいたらと思います。今日は前向きな議論を皆さんとさせていただいたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【男性】　新玉地区はＪＲを挟んで東地区が商業地域になってます。西側が田園地帯だったんですが今は開発されまして住宅地になっておりますけれども、通称西山と呼ばれています地域には大宝寺をはじめ文化財、遺跡、文化遺跡などが多くございます。そして東には堀之内があり環境には恵まれた場所だと思っております。今度開発されますＪＲの高架整備事業において西地区の南江戸地区はＪＲの駅が本当に近い駅になってくると思います。その中でのいろんな開発に対しての期待もしておりますし、そのことによって西側地区がいっぺんに環境整備がされてくると思いますのですごく期待をしておりますし、また、ＪＲ東側の大手町から堀之内に向けてもこれからも開発していただいて、これから全国から松山に来たら玄関口が松山ＪＲへ来ていいまちだなというまちをつくっていただきたいと思います。新玉地区は公民館を中心としてまとまっておりますので、すべての行事において社会福祉協議会その他の団体すべてが一括してまとまって公民館運動をしております。一つの行事するにしても全体が協力してできる、そういうような全体の公民館長なり先代の人がつくっておりますので優れた地域だと自信を持っております。これから皆さんとともに新玉地区がよくなるよう私たち役員が努力しながら、また行政の力を借りながら進めていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

【男性】　ちょうど総合公園の真下に住んでおりまして、総合公園が非常に最近きれいになって、そしてその総合公園の下には朝日八幡、国宝のある大宝寺、山内神社というふうな歴史的な文化遺産がたくさんあると思います。そして総合公園は昔から松山市民にとっては西山と言われて、春の小学校の遠足などにはたくさん今でも来ておられます。そして総合公園になる前はあの総合公園の下をもっと向こうへ行きますと大池と言って大きな池があって土手があってそこでお節句ごろにはみんながお弁当食べたりそういうふうな環境があったんですが、最近考古館ですかね、あそこら辺、あれも最近桜の木がたくさん植わって、あれがもう何年か経って太ると立派ないい花見の場所になると思うんですが。そして総合公園が非常に整備されてよくなってきとるのは非常に喜ばしいことだと思っております。それと、この大宝寺とかそういうものをもっと魅力あるものにしてこの地域の発展の材料にしていただけたらありがたいと思っております。

【市長】　はい、私は実家が旧北条市の河野地区でありまして、実家から考えるとこの新玉地区は本当にうらやましいところだと思ってます。公共の交通機関はＪＲが１番近いんですけど自転車で１５分走って行かなければ乗ることができません。病院もしかりです。自転車で２０分ぐらい走っていかないとありません。そういうことから考えると本当に環状線も通ってますし、ＪＲも近いですし、観光港も近いですし、空港も近いですし、そして文化的なもの、大宝寺さんは松山市内では３軒だけ国宝の建築物があるんです。大宝寺さんの本堂と、石手寺の仁王門と太山寺の本堂、これ３つだけです。で、これが国宝なんですけれども、松山城は国の重要文化財です、格が大宝寺さんのほうが上ですね。建築物でいうと道後温泉、国の重要文化財です、格が大宝寺さんのほうが一つ上ですね。そういういい施設、史跡がある。で、総合公園もある。うらやましいですね。古照遺跡もありますね。近くに考古館がありまして考古館も結構ユニークな学芸員もいまして、結構子どもたちにも人気の場所にもなってますけども、まさにそういう一級の資産が集まっているところが新玉ですので私も本当にうらやましいと思っています。今、皆さん、本当にいい資産がいっぱいあるのが新玉だなと認識していただけたと思いますので、本当に松山のいろんな方は新玉のことをうらやましいと思っているんじゃないかなと思ってます。そしてもう一つ、今後に向けてまさに発展をしていくところだと思ってます。ＪＲ松山駅周辺整備事業とか、大手町通りは県道なのでたちまち松山市がすぐにっていうことにはならないと思いますけれども、ＪＲ松山駅の周辺整備ができたら大手町もこれからいろいろと変わっていく、発展していく可能性が大いにあると思ってます。はい、ちょっとそんなところを述べさせていただきました。ごめんなさい、忘れてた、総合公園が平成２５年度ですから平成２６年の３月ぐらい、椿サミットが決まりまして、それにあわせて総合公園もツバキの整備を一層進めることにしています。総合公園も時期がだいぶ経ってきましたので、ちょっと手を入れることになってますのでまた、魅力的なスポットになると思います。

【司会】　地域の魅力を共有できたところでテーマ２のほうへ移りたいと思います。松山駅周辺整備事業につきましては皆さんの関心が高いと思われますので意見交換に入る前にまず事業の概要について担当課長から簡単にご説明をさせていただきます。

【松山駅周辺整備課長】　私からは、ＪＲ松山駅周辺整備の全体の事業概要と今後の予定を説明をさせていただきます。まず、大きく２つの事業がございます。１つは愛媛県が事業主体となる鉄道高架事業。鉄道高架は今治駅とか高知駅が最近完成したんですけれども、そういった鉄道高架を愛媛県が事業主体となって実施しております。その鉄道高架の区間なんですけれども、北は西環状線とＪＲが交差したところ、そこからじわじわと鉄道が上がってきましてＪＲの松山駅を超えて南は伊予鉄道の郡中線まで、距離で言うと約２．４キロございます。この間が鉄道高架をする区間で、その間に踏み切りが８カ所あります。例えばホテルサンルートの前の南江戸踏切とか、亀井鉄鋼さんがある中の川通りの踏切、皆さんよくご存知だと思いますけれども、朝、夕、非常に混雑しております。こういった踏切は除却されて、混雑解消されてスムーズに行き来ができるようになります。そしてもう一つの大きな事業は、松山市が事業主体となります土地区画整理事業を１６．７ｈａ、東は駅前の南北の通り、北はホテルサンルートさん、南はサクラメント通り、西はアンダーくぐって最初に信号があります砂金の銅像があるところですが、南江戸一丁目と二丁目のちょうど境の南北の道路。この間で土地区画整理事業１６．７ｈａを松山市が実施しております。土地区画整理の概要は短く話させていただきますと、東側の駅前広場を、現在非常に狭いので拡張いたします。鉄道が高架になりますので西側に新たに西口の駅前広場を設置いたします。で、東西の駅前広場を結ぶ形、囲む形で３０メートルの４車線道路をつくります。３０メートルの４車線道路は両側に歩道も設置いたします。そして、東側に公園を１カ所、西側にも１カ所設置することとしております。あと、鉄道高架事業と土地区画整理事業の事業期間なんですけれども、どちらも平成２０年度から事業着手をしておりまして、完成は平成３２年度を予定しております。ちょっと事業が期間がかかるんですけれども、ぜひ、皆さん長生きをしていただいて、立派な駅になったところを見ていただきたいということで、あと関連事業としまして目玉の事業がございます。路面電車、現在大手町通りから古町駅のほう行っておりますけれども、この路面電車を延伸するということで、大手町通りから高架下へ路面電車を引き込みまして、ＪＲを降りたらすぐに路面電車に乗れる。更に、鉄道が上がりますので高架下をくぐって、西環状線まで路面電車を約７００メートル、西環状線は宮前川のちょっと北のところになるんですけど、ここまで延伸するということで、この道路、松山駅西口南江戸線というんですが、３４メートル幅員の４車線、３４メートルというのは大手町通りが幅員３６メートルですので同じ規模の道路ができて、そこに同じように真ん中に路面電車が走るということで、道路は県が行って、市と伊予鉄道さんとで路面電車を延伸するという計画になっております。以上で概要説明を終わらせていただきます。

【男性】　新空港道路千舟町線、西環状線ですね、あれを土居田のとこから南江戸のところまで高架をしてもらえることをお願いしたいと思います。あれはどれくらい期間でやってもらえるんですか。

【市長】　はい、土居田から。

【男性】　土居田から南江戸のところまで高架してもらいたいです。それでですね、西環状線です、これです。

【市長】　高架ですか。

【男性】　そうです。ここまで高架するんですね。これをひとつよろしく申請してください。

【都市政策課長】　これ都市計画道路といいまして当初そういう４車線以上の道路につきましてはすべて高架の計画で、例えば天山交差点におきましても高架の計画でございます。しかしながら今の現状でまだ高架ができていないところでございます。また今、松山市でいいますとやっぱり天山交差点とか次は空港通り、そういうところが非常に渋滞しております。その後、今言われますところの高架になってくるわけなんですけど、今の現状ではなかなか費用対効果、また優先順位からいいますとこれ、国の管轄にはなるんですけど、非常に難しいと考えられます。

【市長】　はい、ちょっと私からお話をさせていただきます。今まずお話をしなければならないのは、やっぱり財政的な話をさせていただきます。皆さんもご存知のように今、国においては１千兆円という借金、赤字を抱えております。これ、割る１億人という、国民一人一人で割り算をすると一人どれだけ借金を抱えているのか考えるとちょっと恐ろしくなるくらい。誰かここまでするのに止めれなかったのかなと思うくらいです。で、皆さんもご存知のように国から地方に国庫支出金とか、地方交付税交付金という形でお金が回ってきます。でも、大もとの国が１千兆円という借金を抱えているならば、地方に回ってくるお金がこれから膨らむというのは考えにくい。ですので、選択と集中をしなければならない。例えば松山市においては１年間に出ていくお金を歳出といいます。円グラフを書いていただくとよくわかるんですけれど、その１年間に出ていくお金、歳出の中で１番大きなウエイトを占めているのが４０パーセントを占める民生費、福祉のお金が前の年と今の年で松山市だけで５０億増えました。で、そのうちの生活保護費、よく皆さん耳にされると思いますけれども、この生活保護費が前の年と今の年で２０億増えました。で、先ほど申しあげたようにこれから地方の財政、これは松山だけじゃないです、地方の財政が膨らむというのは考えにくいですよね。で、中四国の中で松山は比較的財政状況いいっていわれています。その松山ですらこのような状況です。例えば２０億、生活保護費が膨らんだならばどっかで削らないと財政は下り坂になってしまうということです。で、私は自分の生まれ育った松山で、皆さんからこうやってタウンミーティングで「こうしてください、ああしてください」と言われて人間ですからできたら「わかりましたそれやりましょう、これやりましょう、あれやりましょう」って言えれば楽です。言えれば楽ですけれども、そうやってやると市長の人気取りにはいいかもしれませんが、将来の子どもや孫につけを残すことにほかならないんです。だからといって何もしないわけではない。選択と集中を考えて今何をすべきなのかという順位をつけてやってまいります。道路のことで申し上げますと、今、松山がまっ先にすべきは外環状線の整備だと思います。それは松山インターチェンジと松山空港の間、全国の拠点空港２４地区で調査をしました。インターチェンジと空港どんだけ時間かかりますかって調査したら、「３０分以上かかります」って言ったところが４地区あります。それはどこか。松山空港と北海道の３つです。そりゃ北海道のあの広大な大地と比べてはいけないと思います。つまり松山は時間がかかり過ぎてるんです。松山インターチェンジからいっぺん国道３３号で中へ入ってきて環状線をぐるりと回って新空港通りに行ってからいかんといかん。わざわざまちの中に入ってこいでもええのに入ってくる形になってるからです。ですから外環状線をつけることによって３０分が１０分に縮めることができる。これはただただ短縮できるという話ではなくて、大きな災害が起こった際の緊急の避難路になる輸送路になる。そして町なかの渋滞が解消されることによって、排気ガスを削減することができます。車が渋滞していたら子どもさんが飛び出してバイクにぶつかってけがをする。そういう交通事故も減少さすことができる。貨物の方がちゃんとした時間に届けることができるようになる。そういったいろんないい面があるので、まず松山では外環状線を先に整備すべきだということで今進めているところです。なんぼでもお金があればいろんなことができると思うんですけれども、どうしても優先順位をつけながらやっていかなければならないというところをご理解いただいたらと思います。

【男性】　いくつか質問させていただきます。この直接の都市計画には関係ないかも知れませんが、今市長がお話いただいた費用と安全というところでお話をさせていただきます。私、花園の近くに住んでおります。今回、花園町線道路の整備の活用調査の検討業務が出されております。これにつきまして、一つは観光のためにやるっていうのはわかるんですけれども、我々住民としましては、長短あるんですけれども、一つは、住環境が豊かになるということでそれは非常にいいことだと思っております。その反面、今言われました車の渋滞によって裏側の道に抜け道で車がたくさん走ると。生活道路に車がどんどん走っていくということが考えられます。そういったところについて、仕様書では調査を十分されるというふうになっておりますけれども、例えばこの中でアンケート調査っていう項目があります。このアンケート調査の中には、例えば、調査対象として、「花園通り沿線に立地する事業所及び従業者、商店主及び事業者」に限定されているわけです。これなぜ住民が入ってないんでしょうかというところです。その後に「その他必要に応じて関係者等にアンケートやヒアリングを実施する」ってなってますけど、この関係者というのも位置づけがよくわかりません。また、このアンケート調査、もう一つ道路利用者アンケートというのがあります。こちらには、「対象地区内の居住者や云々調査する」とあるんですけれども、この中に「歩行者、及び自転車利用者のアンケート調査を行う」とされております。しかしながらですね、車の利用者に対するアンケート調査というのはないんですね。この辺が私から見ますともう少しきめ細かく調査業務というのは進めていただいて、なおかつ今ある程度調査進んでると思うんですけど、沿線である花園通りにあるマンションには、今いろいろ説明会を担当の方からしていただいているようです。ですがその一つ裏手に入ったところのマンションには、そういった説明一切なされてないです。こういう状況につきましても、実際この対象地区にあるにも関わらずそういった情報開示の不平等が発生している。こういうことにつきましても改善をぜひお願いしたいというところでございます。以上です。

【市長】　これ私、ちゃんと真の私の思いというのをおしゃべりできますがどうしましょう。多分花園町通りのことについてしゃべりだしたら５分１０分かかると思うんですよ。新玉地区と直接ではちょっと離れますかね。ですのでちょっと申し訳ないんですけども、まず新玉地区のことについて皆さんから課題、問題点言っていただいて、その後っていうことにさせていただけないしょうか。もし、新玉地区の話題がずっと２０時３０分まで続いたならば、私の思いっていうのはちょっとお話させていただきますので。はい、まず新玉地区の話題を優先させてもらえないでしょうか。お願いします。

【男性】　はじめまして。よろしくお願いいたします。私たちのまちはこの区画整理事業のど真ん中になっておりまして、当然地元の町内会におきましても平成１３年くらい、契約の段階からこの事業をぜひ完成させようと、協力させようということをキャッチフレーズにやってまいりました。そういうところで現在も区画整理事業と同時に、こういったまちづくり協議会をつくりましてやっております。その中で私たちは常日ごろまちづくりについて、あるいは松山駅はどういう形でいいものができるかということで話し合うんですけど、具体的にイメージわかないんですよね。それでどういうイメージを持って、具体的なビジョンを持ってこれからこういうまちができるというのができるようでしたらお答えいただきたいと思います。それからこれ私たちの区画整理事業の中のことなんですけれども、今ちょうど仮換地指定の作業を、審議会の中でやってるんですけども、いろいろ問題がございます。具体的には申し上げませんけれども、これはぜひこの問題点をつぶして、事業が本当にますます前進しますように、私たちもこれから協力していきたいと思いますので、この点につきましてはこの場でそぐわないと思いますので別の機会に回答いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【市長】　はい、じゃあ具体的なことについて、はい。

【松山駅周辺整備課長】　ご質問ありがとうございます。松山駅周辺整備課の松本です。まず、ＪＲ松山駅周辺の、まちづくりのコンセプトといいますか理念ということで、市のほうで考えておりますのは集客、集客というのは人が集まるというようなイメージです。そして集住、人が住む、そしてコンパクトシティ、まちが一つのまとまりがあるところということで、ＪＲ松山駅、陸の玄関口になりますのでそれに見合うまちづくりということで、道後地区とか大街道、銀天街地区とはまた別のまちづくりをしないといけないと考えております。また、身の丈に合ったものにしていかないといけないということも一つあります。先ほどお話がありましたように、駅から東のほうは大手町通りも含めて、戦災復興の土地区画整理事業が終わっております。今後駅舎も含めて、立派な人が集まるものにしていくわけですけれども、駅の西側につきましては、現在道路が狭いところもあったりいたします。救急車が入れないというところもありますので、基本的に６メートル以上の生活道路を整備いたしまして、特に住環境ですね、これに適したものにしていきたいと考えております。あわせて、市と県がＪＲさんから土地も取得して、市の施設も今後具体的に検討していきたいと考えております。以上です。

【司会】　それではほかにテーマ２について、はい。

【男性】　ＪＲの松山駅は、四国の中や全国でも、１番みすぼらしい駅じゃないかなと思ってます。もうご存知のように四国内でも高松、徳島、高知はすべて駅の周辺整備がなされておりますし、私が知ってる限りではほとんどもう県庁所在地の中でも、全国で１番２番争うくらいみすぼらしいんじゃないかなと思うんですが、これも皆さんご存知のことだと思うんですけれども、最初は国体に合わせて高架事業とか区画整理事業が完成されるといわれてましたのが結局２年遅れて平成３２年度ということに今、目標年度がなってるわけですけど、これをぜひ、もうこれ以上延ばすことなく３２年度内には完成をぜひお願いしたいというのがまず一つお願いでございます。それと区画整理事業もそうなんですが、操車場と貨物基地の跡地が大きな空き地ができるわけですけれども、これも何回も私もご質問させていただいたんですけれど、それをどのように利用されるのか、というところがいまだに具体的なんは何も出てないと。で、いつも行政の方が言われるのは住民の意見を聞きながら検討させていただきますというような意見で、さっきコンセプトって言われた集住、集客、コンパクトシティですか、それをどう落とし込んでいってどう具体的な案をつくられてるのかということですね、もう８年後ですから、もうそろそろ、そういったとこの具体案を提示していただくべきではないかと思っております。以上でございます。

【市長】　私のほうから答えられることは答えましょうか。これはですね、例えば何ができますって言うとそれがひとり歩きをしてしまう部分があるんですね。で、計画として、また言える段階になったら、ひとり歩きをするという面がありますので言える段階になったら確実にお知らせをいたします。もう少し待ってくださいというのが申し訳ないところなんですけれども、私からはそういうことで。具体的に何かあったら聞かせてください。

【松山駅前周辺整備課】　まず、最初のご質問のスケジュールの件ですけれども、先ほど言いましたように平成２０年度から鉄道高架と区画整理事業始まっております。で、実は愛媛国体は平成２９年、愛媛県単独の国体があるということで鉄道高架事業の事業認可のときに平成３２年度の完成ということを平成２０年度に発表しております。そういったことで、平成３２年度を目標に、市も県も、先ほど市長から話がありましたように全力をあげて取り組んでおりまして、現在平成２３年度の終わりですけれども一応スケジュール通り、現在進んでるということで、３２年度の完成目指して全力で取り組んでまいります。

【男性】　３２年度に完成予定しておるようだけども、３２年度に周辺の整備はできた。だけど、ＪＲの跡地をどのように使ってまち全体を活性化するか、にぎやかにしていくか市長さんにちょっと答えてもらいたいと思います。

【市長】　はい、そうですね。ちょっと重なるかも知れないんですけど、やっぱり、大街道、銀天街の地区とこちらが同じような機能を持たせたら、いわゆる食い合いになってしまうと思うんですね。ですので先ほど申し上げたように大街道や銀天街とか道後温泉とかはまた違った機能でこちらをまちづくりをするというふうに考えております。で、ちょっと具体的に、じゃあ何をつくるんだということについては、ひとり歩きをしてしまう面があるので、言える段階になったらお話をいたしますということになります。課長から何かつけ加えて。

【男性】　もう時間ないですよ。もう３２年度なんかすぐですよ。今から考えてないと何もできん。

【市長】　考えてないことはないんです。考えてるんですもちろん。私たちも皆様の税金を使わせていただいて事業をやるのですからもちろん考えてるんです。はい。

【松山駅前周辺整備課長】　施設の検討につきましては当然市の内部でも十分検討を進めております。これは市の内部だけではなくて当然市民の皆様広い範囲で合意を得て進めていかなければ、これからの時代難しいと考えております。今２３年度ですが、２４年度から、そういった外部の方も含めて、進めていこうと考えております。

【男性】　ちょっとご質問申し上げたいんですが、この問題につきまして、歴史的な背景をお話しますと、平成３年度に新玉公民館で新玉の未来を拓こうということでシンポジウムを行いました。それで交通体系の改善と教育問題、グローバル化の問題と３点か４点議論しまして、今ＪＲの駅東と踏切西の一体化を図り平面通行帯をつくっていただこうというのが大きな願望で、そのときに、県のほうへも陳情に行きました。そうするとお答えが、市駅前の開発が終了後でないと駅前にはお付き合いできません、こういう事務当局の答えだった。こりゃあかん、もう相手にしてもいかんけんやめようということで撤退、一時撤退陳情、事業を止めました。そして、そのときにもう１点の交通体系の改善というのは伊予鉄道高浜線をＪＲと同時に高架にして、ＪＲ駅に引き込んで、そして古町のほうへ回していけば県外県内からのお客さんが市内に入るんできるんじゃないのかと。いろんなところに入る、利用客も増えるんじゃないかということでしたが、それは残念ながらパスをされましたが、ただ、今お願いをしたいのは、高浜線で新玉校区内に１１カ所の横断してるわけです、道路。その中に国道もあります。特に千舟町線におきましては特に、時期によったらこの公民館前くらいまで車が渋滞している、危険極まりない。そして校区民はかなりそのために日常生活に不便しているという状況にあります。この問題に市として取り組んでいく気持ちがあるのかないのか、その状況をちょっとお願いしたいと。

【都市政策課】　都市政策課の白石です。ただいまの済美高校前の交差点付近の鉄道高架だと考えてますが、伊予鉄道の鉄道高架につきましては、現在、ＪＲの鉄道高架を行っております。それと先ほど市長も説明しましたように、外環状線で渋滞緩和を図る形で外環状線の整備に取り組んでいるところです。そういう交通の円滑化の事業いろんなことをやっているわけですけど、そういうことを効果を踏まえて今後、伊予鉄道の鉄道高架につきましても関係機関と協議しましてまた、検討してまいりたいと考えております。

【男性】　研究ですか。

【都市政策課長】　研究とあわせて、検討もしてまいりたいと考えております。

【市長】　私から申し上げます。これは伊予鉄道さんがされることになりますよね、鉄道高架事業。例えば松山市がものすごくお金があるんだったら、松山市の渋滞緩和につながることですから、松山市のお金、税金を伊予鉄道さんにだいぶお払いして鉄道高架しましょうということもできるかもしれないんですけれども、先ほど申し上げたようになかなか財政が厳しい状況であります。まずは外環状線を整備することで市内の渋滞緩和に努めると思ってますので、これは平成２年に関係者が集まった協議会が設置されまして、ＪＲ予讃線と伊予鉄道３線、横河原線と高浜線、郡中線、この高架化を検討した結果、道路交通の円滑化だけじゃなくて、駅前広場の再整備だとか、周辺市街地の再整備などさまざまな波及効果のあるＪＲ予讃線を優先して整備していこうというのを平成１２年に決定したところです。ですので、段階を踏まえていろいろと協議をしてきて、この形でと今なっているわけですので、渋滞については外環状線をつくることで解消に向けていこうというところで、これがまた、松山市が持ってる鉄道だったら話はまた違うのかもしれないですけど、伊予鉄道の線路という形になりますから、伊予鉄道が主体であるというところがまた違うところであります。

【男性】　そこわかってる。指導する方向性があるのかないのか。

【市長】　これ、ないということはありません。私も通行するものとして、あの線路が高架になればかなり交通がスムーズになろうというのはわかっておりますので、それはもちろんずっと検討はしていきます。

【男性】　今、平成２年に県と市が検討協議会を立ち上げて、平成６年、７年ごろまで来ますと、発会式を１回、そしてその協議会を１回、たった２回くらいしかしてません、それで１２年まで塩漬けにされてたという事実を、市長さんご存知ですね。

【市長】　私知らないです、それは。

【男性】　よく事務当局聞いてみてください。そういう非常に景気のいい時代に塩漬けにされて、お金がなくなってはじめて、そして四国でどんびりやから最高の駅前をつくりましょうというキャッチフレーズですね、そのあたりを十分にご理解をいただいて、施策にご指導を賜りたいと思います。

【市長】　塩漬けにしてたんですか。

【男性】　そうですよ。

【市長】　そんな経過があるんですか、そのころ。

【松山駅周辺整備課長】　おっしゃられたように松山鉄道高架検討協議会、平成６年から１２年までちょっと期間があいてるということがございました。今、ありがたいお言葉いただきまして、ぜひ立派なＪＲ松山駅周辺整備を進めていきたいと考えております、ありがとうございます。

【司会】　それではそろそろテーマ３のほうに移りたいと思います。ではテーマ３は「暮らしの安全安心と福祉対策について」でございますが、この内容で、はい、今手が挙がった方。

【男性】　河川水路課さんには常にお世話になってありがとうございます。この席をお借りしてお礼申し上げます。私がお伺いしたいのは、松山市道新玉２７号線といってもぴんときませんが、旧宮前川の河川を埋めるなり暗渠にするなりして道路の拡幅工事をしてほしいいうことで、前町内会長を始め関係の方々がたくさん何回にもわたって市、県に陳情しておりました。この宮前川は昭和４６年か４７年ごろから県の事業として始めましてようやく完成近く、ＪＲの朝美踏切まで大体工事が終わったようです。ところがこの工事が進むにつれて、旧河川は荒れ放題、水が流れません。季節によっては草が生い茂り、人が落ちてもわからない、そんな状況になっております。で、心ない人がですね、空き缶を捨てたりごみを捨てたり、盗難車が投棄されたり原付まで落ちてます。そんな状況の中で町内会の役員の方初め、高齢クラブの方々、清掃活動や河川の維持管理協力していただいてるんですが、なにさま、はっきり言って申し訳ないんですがお年です、もう限度です。そんなことからぜひ早く、宮前川を埋め立てるなりして松山市道新玉２７号線を確保していただきたいと。で、今年の１月１７日に、松山市の道路建設課の方が市道と民地との境界の確定の立ち会いがありました。これ見てみるとようやくこの陳情していただいたおかげで事業が前向いて進み始めたのかな。住民に目に見える形で事業が進み始めたのかな。ちょっと安心はしてるんですが、聞いてみるのにまだまだ予算の関係もあるのでいつごろまでにという返事はできないということは聞いております。予算がつき次第、できるだけ早い機会に拡幅していただいて、子どもの通学路にもなっております、ぜひ早い機会に完成していただいたらと思います。以上です。

【市長】　はい。わかりました。これは皆さんにいい報告ができます。これはできます。来年度、ですから４月からこの４月からっていう話になりますけれども、旧宮前川の川、廃川の敷地部分の用地を愛媛県から寄付または買収によって道路用地として取得します。で、その後で一部工事を開始する予定です。動き出します。事業費は、国の社会資本整備総合交付金事業というのがありまして、それを活用してできるだけ早くというふうに目指しております。そういうお答えになります。ようやく動き出しましたのでお待たせしましたというところです。私も、あそこの道はバスが通りますよね。個人的なことになりますけれども、自分の子どもが習字教室に通う道でありますので、こんな細い道をよくバスが通ってるな、自分も車で通るときに離合がちょっと怖いという細い道でありましたので、何とか早く広げることができないのかなと思ってたんですけど、来年度、つまり今年の４月から動き出しますのでお待たせをいたしましたということで。

【男性】　一つお聞きしたいんですが、下水処理場、今空地になっておるところです。これ実は１５年くらい空地になってるんじゃないかと思いますが、これはたいてい補助金の関係があってなかなか難しいんじゃないかと思っとるんですが、これはいろんな点で犯罪とかそして経済の問題とかいろいろな問題で絡んでくると思うんですが、これを空地にしておくのは問題があるし、下水処理場はこれええ悪いをいうたら先輩に怒られるんですけど、もう人口が減っていくからあんまり必要がないかもわからんなと思ったりしよるんですが、そこのところこれからどうするのかお聞きしたいと思うんです。

【市長】　はい、私からちょっと述べさせていただいて。先ほど財政のお話をさせていただきましたけれど、本当にお金があればやりたいこといっぱいあるんです。先ほど言っていただいた伊予鉄道の高架のこともそうです。例えばこのＪＲ松山駅周辺の「こんなもの建てますよ、あんなもの建てますよ」って。でも申し訳ないですけど高度経済成長の税収がどんどん上がっていく、日本の経済も元気で税収がどんどん上がっていくっていう世の中だったら、箱物をぼんぼんつくっていくっていう世の中だったかも知れません。でもそれができない時代になってきている。よく言われるように少子高齢化の時代です。松山はそんなに極端に人口が減っていくってはならないんですけど、現役減少社会になる。現役の人、税金を払ってくれる方々が少なくなっていく世の中が想像されてます。やっぱり箱物をぼんぼんつくっていくっていう時代ではなくなっているところです。ですので、預かる身といたしましては、あそこ下水処理場にあいてる土地があったら、あそこ売ったらええやないの、民間出身ですから、あいてる土地があったら売ったらええやないのって思うんですけども、これも経緯がありましてあそこは置いておかなければならない土地なんです。

【下水道政策課長】　下水道政策課の青木と申します。中央浄化センターの件では新玉地区の皆様にいろいろご協力をいただきましてありがとうございます。まず、お礼を申し上げます。それで南側用地が約１５年間空地になっている件でございますけれども、確かにご指摘の通りでございます。ただあそこの処理場は、中央処理区といいまして今現在整備をしておる久米とか桑原とかあのあたり一帯の下水を集める区域になってございまして、現在その整備率が約６０パーセント、半分強というところでございます。したがいましてこれから順次整備も進めますので、その整備に伴ってまた汚水が増加してきたらそこをまた増設していかなければならないということで、現在計画が位置づけられておるものでございます。ただ、ご承知のように平成６年の大渇水がありまして、市民の皆様の節水のご協力によって水の使用量が今現在減っております。そういう形で増設の時期が少し延びておるということで、平成９年ごろにはもうそろそろ増設せないかんなという時期が本当ございました。で、実際計画をしたんですが、その後、その水量の実績を見ると、もうちょっと待てるよ、もうちょっと待てるという形で水の量があまり伸びなかったいうことで、今現在、空地になっておる期間が非常に長引いておるということでございますけれども、最終的には、南側用地にも施設を計画をするという時期がまいりますので、市長言いましたけれども、確かにあいておったら下水道経営も厳しいですから売ったらいいいうこともあるんですけれど、そこまではできないという実態でございますのでよろしくお願いをいたします。

【男性】　交通安全についてお願いをしてまいりたいと思います。松山駅前交番があります。これは東署管内１２派出所交番の中で事故の扱い件数が１番多くございます。ということは新玉地区が事故が多いということでございます。これどうしてこの事故が多いんだろうかと思っておりますと、新玉地区にはＪＲの松山駅、これには郊外バス、市内電車、バス、いろいろのターミナルになっておりまして、大変交通量の多い混雑するところでございます。事故を起こしたんを私は時々見に行きます。どうしてこういう事故が起こるんであろうかと。追突事故いろいろありますが、これは新玉地区の人が事故を起こすんじゃなくて、よそから来た人が事故を起こすということになっております。どうしてよそから来た人が事故を起こすかというと、地理不案内のためにこのような事故が起こっております。県道、国道、市道、主要道路におきましては道路標識があります。案内標識、警戒標識、規制標識、指示標識、補助標識、こういう標識が主な道路には標示しております。ところが一般市道へ入りますと一つもそのそういう標識が割合少ない。また、まして今ここどこを走ってるだろうか思うとやっぱり町名の表示というものが一切ありません。町名を表示することによって事故がいろいろなことが起こるときに大変便利であります。私の知人が３０年ぶりに松山に参りまして、それから市内を方々案内します。ところが「ここら辺はどこ走りよんだろう」とこう言うと実際案内しておる私自体もどこを走っとるかという回答に苦しんでおります。このことについてやはり市道における町名表示というのを私はしていただきたい、このように思っております。２１日にはパルティフジの南側の交差点におきまして、女性の方のオートバイと軽自動車が衝突して亡くなっております。私も現場へ行ってみますと注意とかいう標識は一切ございません。これは市道でございます。たまたまパルティのほうからオートバイで出られた女性が東から西向いて行く乗用車にはねられて、そのはねられた拍子にポールに当たって亡くなってしまったとこういう痛ましい事故が起こっております。現在愛媛県におきまして８名の死亡事故者がおります。そのうち３名は松山東管内の死亡者でございます。ということを考えていただきますと、やっぱり地区を離れて一歩外へ出たらどこ走りよるやら一つもわからん。今は車にはナビがついておりますが、しかしナビを見ないでくださいと。市内を走るときには道路標識を探して走ってくださいと。それは市内には道路標識は何もないんやからそりゃ当然事故が起こってくるのは間違いはない。

【市長】　私のほうからちょっと勉強させてほしいんですが、新玉地区で事故の多い場所３つぐらいちょっと教えてもらえませんか。

【男性】　事故数ですか。

【市長】　事故の多い場所。

【男性】　多い場所というのは、大体三番町の通りとかいろいろありますけど、発生件数の道路のところは細かに調べておりませんけれども。交番に届ける事故というものが松山駅前交番が１番多いんです。

【市長】　わかりました。今松山市役所と警察の交通のほうとはいい連携が取れてると思います。国土交通省とも一緒になって自転車ができるだけ事故起こさないように一方通行を県庁前通りでやったりとか、さっき申し上げたように、少子高齢化時代ますます進むというとお年を召した方、障がいを持たれた方が出てくるだろう。で、子どもは少ない、本当に子どもは宝。子どもとお母さんが手つないでて、手離れた瞬間に自転車とぶつかって亡くなるケースもありますよね。ですからそうならないように歩行者は歩行者、自転車は自転車ときっちりと区分をされていく時代になっていくと思うんです。そういう試みを国土交通省や警察と一緒になってやってる、今いろんな連携が取れているところかな。松山市もこの４月から、小学校３年生に自転車免許証というのを出します。これはちょっと今自転車のマナーが悪くなっているので小学生、なぜ３年生かというと、１年、２年生はまだあんまり乗らないんだそうですね。３年生くらいから本格的に乗り出すということで自転車免許証、紙じゃなくて、ちょっといいものにして。もう紙だとお母さんたちに捨てられちゃうといけませんので。例えば自転車免許証持ってると市有施設、例えばアクアパレットだと割引ができるとかそういうちょっといいものをつけて、子どもたちに署名してもらって「私は交通ルールを守ります」みたいな自転車免許証を発行しようと思ってます。とにかく事故を減らしたいって思ってるんですよ。そういう今連携をしているところですけど、標識のことについて何か。

【都市政策課長】　標識についてはもうご存知だと思いますけど道路管理者、市道の管理者、松山市または警察、いうふうな警戒標識とか案内標識ございます。今のお尋ねの町名の標識ということなんですけど、これも市役所に持ち帰らせていただいて、また検討させていただきたいと思いますので、またよろしくお願いします。

【男性】　先ほども済美の高架の話が出て、これ私聞いて帰りたかったんですけど、先ほどいろいろと流れを聞きましてそうかということで。近所に住んどるもんですけん提案いう形になるんかな、いっぺん現地を警察の方が検証していただいて、どんなことの交通指導をしたらええかとか、いっぺんも警察の方見えてないんですよね。一度そこらで検討してどういうことをしたらいいのかというのをぜひお願いします。

【市長】　はい、わかりました。これ早速県警のほう伝えようと思います。これも私の個人的なことになるんですけれども、実は２０歳のときに同級生を亡くしております。やっぱり急に友人が亡くなるとどんだけ空虚な気持ちになるかというかはよくよく知ってますので、交通事故、１件でもそういう辛い思いをする人もなくしたいと持ってます。ですのでこれは早速これは警察のほうへ伝えますので持ち帰らせていただいたらと思います

【男性】　今すぐできることは難しいと思いますが、私たち高齢者は介護保険にかからないように、できるだけ生きとる間は人に迷惑かけないようにと思って、健康状態については常々自分自身で身を律するというのを心がけてるつもりでございますが、これは松山市だけでは無理だろうと思うんです。というのは昔の国民保険のときには毎年人間ドックに希望者は健康保険組合のほうから指導してもらって、毎年受けて一応安心をしておりましたが、今度は高齢者保険になってきますと、広域行政になって、松山市だけではなかなかそれができないということで、高齢者保険になってからは人間ドックが受けられないということになっております。金のかかることですから、すぐやってやろうとはいうことにはならんと思いますけれども、やっぱり介護保険を使わないように健康であることが１番人に迷惑かけないことですから、そこらあたりはひとつ何とか相談をしていただいて、明るい方向で問題を解決する方向で努力いただけないだろうかと。今一つはこれも松山市だけではできないんですけれども、プライバシーの問題があって、私の町内会でも民生委員の方々の世代交代の時期に来ておると思うんです。従来も民生委員やっておられた方が６０から７０になって、今３０から４０の人たちが世話を願っておると。ところがこの人たちにはひとり独居老人を確認をするのに、プライバシー等の問題があってなかなか確認が難しいという苦労を話されておりました。これはやっぱり人権問題もあるでしょうけど、実態を調査するということは、お互い人間社会の中においては人間尊重の意味からいっても必要なことだろうと。そういう意味でひとつ何らかの形でこれを強制的にと言っては何ですけど、調査がしやすいように、連絡が取りやすい仕組みを市としても考えていただきたいと。以上でございます。

【市長】　はい、ありがとうございます。連絡先のこと大濱課長から言って、私医療のことについて、医療費のことについて。

【保健福祉政策課長】　医療のことについて。前段のお話についてお答えします。おっしゃる通り高齢者医療につきましては愛媛県内の２０市町が合同で保険者を立ち上げておりまして、その２０市町の合同で立ち上げた保険者の中で検討することになっております。国民健康保険も同じですが、特定健康診査という事業が国の事業でございます。この事業で血液検査であるとか、尿検査であるとか、いろんな検査を行ってそれを今後の生活、あるいは健康状態の把握に努めていただくという国の事業なんですが、こういった事業を平成２０年から立ち上げております。これは国民健康保険に加入されてる方も、後期高齢者医療制度に加入されてる方もそういった制度がございます。以前まで国民健康保険でミニドック健診というものがございましたが、そういった健診に変えていこうという扱いをしておりますので、今ある事業の中でご自身の健康管理に努めていただきたいと思っております。よろしくお願いをいたします。

【市長】　あと連絡先について。情報ですね。個人情報の絡みもあるけれどもと。

【保健福祉政策課長】　個人情報につきましては今、松山市で個人情報保護法の問題で、民生委員に災害時の保護が必要な要援護者についての情報提供を検討しております。こういった中で個人情報といいながらでも、災害があった場合に速やかに地域で援助が必要な方の把握ができる対策を今、講じておりますので、もうしばらくお待ちいただいたらと思っております。

【市長】　もし倒れたときにお話できないですよね。そういう例えば独居の方が倒れたときに自分の飲んでる薬とか自分の情報がわかるようなもの冷蔵庫の中に入れておく「安心キット」っていうのが最近松山市で始めています。こういう新しい取り組みもしております。医療費のことと先ほどご質問いただいた花園町のことがちょっとリンクして関係をつけてお話できますのでちょっとお話をさせてください。できるだけコンパクトにお話をさせていただきたいと思いますけれども、これからは歩いて暮らせるまちづくりをすべきだと思います。松山はまだ全国の都市の中では希望が持てるというお話をさせてください。今、大都市問題なんていわれてますけども、都会におったら車が渋滞するとか通勤電車がめちゃくちゃ混むとか、ＣＯ２もいっぱい出る、温暖化だとかいろんな大都市の問題があります。大きい、大きすぎる、一極集中しすぎた、そういった中で、ちょっと日本よりも少子高齢化が早くやってきたのがヨーロッパです。で、ヨーロッパのまちづくりを学べるところがいっぱいあるんです。例えばパリで言うと首都圏という言い方がありますけれども、パリ圏は１，１２０万人くらい人口がいます。１，１２０万でどんとやって行こうって考え方ではなくて、５０万都市を２０つくっていこうという発想なんです。これはフランス語読みですから英語でわかりやすく言うとコミュニティアーバン、「都市共同体」っていう考え方なんですけれども、５０万人になったらその都市共同体をつくっていいですよということになってます。つまり、５０万人というのがすごいいい規模なんですよ。松山、５２万人、ちょうどいい都市規模なんです。松山は都市の中心に公園とか病院とか学校とか役所が集まってるとこなんです。これは奇跡の都市っていわれるようなところもありまして、皆さんも全国に行かれたら、これが当たり前やと思ってたけれどもそうじゃなかったんだ。松山がこうやって集まってるのが当たり前じゃなかったんだ、気づかれると思います。意外と役場が離れたところにあったりとか、役場と病院が離れたところにあったりとか、大学が離れたところにあったりとか、そういう松山は都市の機能が集約できるところなんです。これからはさっき申し上げたように現役減少社会に入ります。つまり、税金を払ってくれる人が少なくなってくる。そういった中で人口も減少してくる。そういった中で大きい道路をどんどんつくるとか、上水道下水道をどんどん郊外へ延ばしていくっていう発想ではなくなります。これは郊外に住むなっていう話じゃありません。郊外に住む方にももちろん目配り気配りはいたします。私も北条が実家ですからどっちかいうたら郊外のほうですよね。松山は電車、バスが公共の交通機関がまちの真ん中をぐるりと回っているというのは非常に大きいことです。これから高齢化していきますのでどっちかいうたら自動車中心の世の中やったけれども、高齢化して目もあんまり見えんなる、体力も落ちてくるというので免許を返上するという方も増えてくるでしょう。車がなかったら生きていけんという世の中ではだめ。公共交通機関っていうのが大いに機能するようになってくる。これからはちょっと英語で訳しますんで。「transit oriented development」っていうtransit移動、輸送ですね、をoriented適応させて、development発展させる。平たく言うと住むところと商売の土地を近くにして公共の交通機関をそれに適応させて、歩く人、自転車をもっと発展させようという考え方があるんです。それをやろうと思ったら商業地、大街道、銀天街と住むところを接近させて、例えば大街道、銀天街ですよ。公共交通を適応させて、公共交通残ってるじゃないですか、松山。これ電車がなかったらできない話ですよ。そして歩く人、自転車の人を発展させていこう、免許がなくてもやっていけるようにっていう都市のつくり方がこれから主流になります。それができるところが松山なんです。ものすごく可能性のあるところが松山なんです。今、花園町をなんでやろうとしているかと言うと、花園町の東の商店街はアーケード４０年経ってます、かなり老朽化してます。そういった中で電線の地中化が国と一緒になってできる、そういう流れになってます。もしあそこをさっき言ったとおり、歩く人、自転車の人とちゃんと区分できて、今車の通行量調査をまさにデータがあるんですけども、今の量から考えると１車線でいけるんです。もちろん右折レーンとか左折レーンとかもつくる気持ちでおります。もちろん皆さんと一緒に計画をつくっています。いろんな方とお話をしながら、押しつける気はまったくありません。でも、通行量をちゃんと把握して今考えてみてください。花園町通りは電車が複線走ってて、両方に２車線ずつあって、イチョウ並木があって、副道があって、アーケード商店街がある。４０メートルの幅広い通りです。車の多く活躍する使い方なんですけど、もうちょっと歩く人、自転車に配慮した空間の使い方ができないかっていうことなんです。これを皆さんと一緒に計画をしていこう。そしてもう一つだけ、やっぱりまちの中心部っていうのは都市のエネルギーなんですよ。オフィスがある、商店があるということで税金がいただけるところなんです。今中心がどうなってますか。どんどんどんどんコインパーキングが増えていっている、中心部の魅力がなくなっている。これからは集約していくんだっていう話。郊外に住むなっていう話じゃないですよ。医療費の話をしていただきましてありがとうございます。国においては、国民一人一人が１日３千歩歩いていただいたら国全体でいうと医療費が２，７００億円削減できるんです。こういうデータが出てます。２，７００億円医療費を削減できたら何がいいんだっていったらほかの事業ができるんですよ。道路も大事、医療も大事、福祉、おじいちゃんおばあちゃんのことも大事、子どもたちの教育も大事、やらなきゃいけないこといっぱいあるんです。お金がいっぱいあったらいろんなことやりたいですよ。でもそういう時代じゃなくなってる。だから一人一人に、東京の方っていったら地下鉄の移動なんかで松山の人に比べるとよく歩きますよね。松山の人はあんまり歩いてないです、それに比べると。これはおじいちゃんおばあちゃん腰が痛い、膝が悪いっていう人に歩けっていう話じゃないんです。歩ける人はもうちょっと歩いてみませんかっていうお話なんです。これをすることによって今、城山、まちの中心部にあんな芝生のきれいな公園あるところはめったにないですよ、全国でも。城山、花園町があって市駅です。交通の結節点、多くの人が乗り降りするところ。そこから銀天街、雨でもお買い物ができます。大街道雨でもお買い物ができます。そして新しくなったロープーウェイ街、きれいになりました。平和通り、平和通りも句碑が結構建ってます。県民文化会館まで行って県民文化会館の東側には俳句の道といういい道ができてます。俳句の道を右に曲がって道後のほうににきたつの道っていうきれいな道ができてます。水の流れがあります。歩いて楽しいまちづくりには水と緑が大事なんです。その水がもう流れているにきたつの通りがあります。道後商店街があります。道後温泉本館、この堀之内から道後温泉本館まで４．５キロ、歩くと１時間のいい道のりなんです。まちの中心部はまちのエネルギーだって申し上げました、大街道、銀天街は商業地です。そこをもっと歩いていただくようになって、もっとお買い物していただくようになったら松山の地方経済の活性化につながるんです。ですから花園町を、魅力のあるとこですがちょっと欠ける部分がある。それは年が経ったから。だから今やるべきところは花園町なんだっていうので今やろうとしてるんです。もちろん皆さんとお話をしながらやっていきます。大手町もいずれそうなると思います。堀之内、大手町、きれいになるＪＲ、線路が延びる総合公園、一体的な整備ができるでしょう。だからやってるんです。選択と集中で今松山には何をせないかんかというのを考えてやってるというのをご理解いただけたらと思います。すみません、長くなりましたけれども。

【男性】　お世話になります。３点ほどあるんですけれども１点は、この公民館の横に賃貸マンションがあるんですけれどもそのマンションの前の道の千舟町との角の交差点の改良をお願いできないかと思うんですけれども。市民病院のほうから出てきまして、ちょうどその千舟町の角のところが本当に狭くなってるんですよ。何年か前にバイクの方が交通事故で多分亡くなったんじゃないかと思うんです。

【市長】　一つ一ついきましょうか。

【都市政策課長】　交差点につきましては、私も現場確認させていただきました。非常に鋭角になっていて幅員が狭いところですので、今後交差点改良を行うためには地権者さんの同意が必要でございます。ですから町内会、または改良区さんにご相談されて、また地権者さんの同意をとっていただければ、非常に危険な交差点ですので事業ができると思います。よろしくお願いします。

【市長】　もしわからないことがあったら皆さん専門家ではないのでなかなかわかりにくいと思いますので、このあとでも聞いていただいたらどのように進めたらいいかわかると思いますので。そうですね、このあとちょっと言っていただいたらご説明できるかと思います。

【男性】　そして次は信号機のことなんですけども、時差式の信号機につきましては矢印をつけていただけないかと思うんですけれども。時差式であってもいつ行っていいかわからないところがあるんですけど。

【市長】　はい、これについては私も思うときあります。時差式って何か怖いですよね。これについては警察のほうの担当になりますので場所をこの後、担当に言っていただいたら警察に伝えますので、はい。

【男性】　新玉校区とは関係ないんですけども、国道沿いの雑草関係が最近目立つんですけども、もう中にはたまらず、歩道に面してる方がもう本当に朝から仕事をしないで、その仕事の会社の仕事がそこの草取りだというような感じのところもありましてですね、すみませんどうも。以上です。

【都市政策課長】　後ほど場所また教えていただきたいと思います。

【男性】　実は昨年の１２月１９日に松山市河川水路課の要請で、マンホールがあふれるという内水のハザードマップをつくるというので新玉地区からは私と消防団の団長が行きました。八坂、番町、新玉を中心にビジネス街、１番人通りの多いところでマンホールがふいたということで優先的にここへハザードマップをつくろうという会に呼ばれたんですが、平成１６年と２１年に確かにマンホールふきました。古照も何カ所かふきました。そのときにまず原案として、そのときに１時間あたりの雨量はどれくらいであったか、１日の雨量はどれくらいであったか、確実な数字は把握していない状態で始まりました。それで次はいつやるのかと言うたら、今年の５月ごろに結果を出します。「何。」と言って私は聞き直したんです。あのときに、１６年のときには確かに大きくふいたけれども、それから後にかなり下水道はマンホールを通っとる、道路に埋まっとるヒューム管は変えた、だから同じ量で雨が降ったとしてもそう簡単にマンホールはふかんと思うがなぜ、今いずれやるんじゃったら新しい雨量と時間雨量と総雨量とを入れたいわゆるシュミレーションをつくるべきではないかということはそこで提案したんです。けれども結局東京の業者がどこまで１６年と２１年の記録を持っておるかしらんけれども、次、今年の５月ごろに結果を出すからこれでいいですかということを聞きますと。これじゃったら完全に松山市は東京の業者に丸投げしとるということです。シュミレーションをつくるときにそういう新しいデータを入れて、計算を起こすということをしてほしい。なぜこういうことを言うかと言いますと、いわゆる中心街から最後に来るのは南江戸の終末処理場なんです。あれ、平地であったんですが、千舟町線と西環状線ができたために、処理場用地が低なってしまっとるんです。それでもしも川の氾濫でなくてもいわゆるマンホールの氾濫で１番最初に水浸しになるのは処理場やと思うんです。あの処理場は今まででも上に建物が建っておって公園にもなっておりますが、下は横から水が流れてきたら直接入るような構造になっとるんです。だからまずそのハザードマップをつくるときには新玉地区ではあの処理場の水を、外から流れる水を防止することを最初に考えてほしいという提案をしたんです。皆さんの話とはだいぶ違いますけれども非常に大事なことですからご検討お願いします。

【市長】　はい、これは下水道政策課長ですか。

【下水道政策課長】　ご協力ありがとうございます。少し雨のことをご説明をさせていただきたいんですが、確かにちょっと不備な点があったことは大変申し訳ないと思っておりますが、松山市の下水道計画の中で雨水の計画、これ時間雨量は４０ミリ。で、１０年確率で、１０年に１度の大雨に対応するということで整備をしております。しかしながらまだ皆さんご存知のように都会のほうではゲリラ豪雨ということで報告されておりまして計画だけ、そういうハード整備だけではなかなか対応できない時代が来ております。そういう中で先ほどご説明ありました内水ハザードマップといいまして、そういうゲリラ豪雨にも対応できることを考えていこうということで取り組みを始めたものでございます。といいますのは、ハード整備だけではそういうときにはとても対応できないから、まずは現実にどこが浸水をして、早く逃げてもらうところはどこだろうかというところを見つけ出す。それを日ごろから皆様方に周知をして、こういうときになったら避難してくださいよということをまず皆様に知っていただく。そういう中で市民の皆様の安全を図ることが目的の事業でございます。そういう中で東京の業者と言われましたのは、多分そのシュミレーションをするのが特殊なコンピューターを使いますのでそういう業者が入っておるんだと思いますが、そして平成１６年とか２１年の実際の雨と、そういう今現在地中に埋まっておる雨水管を全部再現をして実際にコンピューターで回した浸水の被害の状況と皆様方が現実に把握しておる浸水の状況が正しいものかどうか、それをまず検証をして、そしてこの５月に提示をして、皆様がご承知のものと、これ合ってるでしょうかということを確認するんだろうと思います。

【男性】　あなたそのときにその会におりましたか。

【下水道政策課長】　おりません、はい。

【男性】　私がその場で言ったことを聞いておるんだったら言ってもいいですけど、確かにそうだったんですよ。

【下水道政策課長】　はい、それはすみません。ただ、シュミレーションという方法は、この地区が初めてではなくていろんな地区でもやっております。それは内水ハザードマップをつくる過程ではなくて、いろんな形でやっております。それについては愛媛大学の教授なんかも入っておりまして、そういう形でやっておるので、恐らくという形でお話はさせていただいたんですけれども、そういう過程を踏んで皆様方に危険なところを知ってもらうという形でしておりますので、至らぬ点あるかと思いますけれどもまた今後ご協力をお願いしたいと思います。

【男性】　もう一言言わせてください。ほかでもやっておると言いますけれどもそのときは１番最初はここなんだと松山市全体やりたいけれど、ほかでやっとるいうこと一言も聞いてないですよ。

【下水道政策課長】　内水ハザードマップというのは、５地区をやる予定しておるんですけれども、まず１番、やっぱり都市機能を集積しておるこの新玉地区始め、市内をまず１番に優先するというのがスタンスでございます。それでほかの地区は、下水道計画の過程でシミュレーションをやっておるというところでございます。

【男性】　南江戸公園のトイレの水が処理水なのか飲料水なのかというのが１点と、もう一つ洗車場をどうしてやめたのかいうのと２点お願いしたらと思います。

【下水道政策課長】　洗車場をやめた件は、確かに下水の処理水をかなりきれいにして、高度処理水を皆さんに使っていただこうということで一時しておったんですけれども、洗車をしていただいた方の列ができて周辺の道路、通行の支障になるという苦情もございましたのでやむなく中止をしたという経緯がございます。それと南江戸公園のトイレの水道、場所を後ほど確認をさせていただいて、ご回答させていただいたらと思います。

【男性】　いやいやすぐわからんですか。トイレの水が飲料水か、処理水かいうのを。

【下水道政策課長】　その南江戸公園いうのは処理場の上部の公園のとこですか。

【男性】　そうそう、テニスコートの横の。

【下水道政策課長】　ちょっとすみません、その点確認してからお返事させてもらいます。

【司会】　それでは最後に市長のほうから本日の感想を申し上げます。

【市長】　皆さんどうもお疲れ様でございました。ありがとうございました。今日いろんな意見が出たと思っております。これはありがたいことだと思っております。やはり冒頭に私が申し上げましたけれども、やはり行政が押しつけるのではいけないと思うんですよね。皆さんのお声をいただいて、そしてよりいいものにしていくというのが大事だと思いますので、こういった機会をいただけてよかったなと思ってます。で、今回手を挙げたかったんやけど言えんかったという方もいらっしゃると思いますので市長へのはがきですとかわくわくメールという形で、今日、はがきを出口に用意しております。そのはがきも持ってきておりますし、メールで私のところに声を寄せていただくのもできますので、今日手挙げれんかったという方は、そちらをご利用いただいたらと思います。今日いただいたご意見、すぐにお答えできなかったものもありますけれども、これは必ず１カ月を目途にお答えを返させていただきますのでよろしくお願いいたします。ちょっと私の思いを述べさせていただいてそれがよかったのかな、皆さんの手が挙げれなくしてしまったんだろうかとも思っておりますけれども、とにかく皆様の声を活かしながら市政を運営していきたいと思いますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

――了――